

世界中でロシアに抗議

る日本国民の声を集めて、核による恫喝(どわかつ)は許されぬという声を突きつけようと呼びかけました。ウクライナの主権や

国民の命だけでなく、「主権の尊重」「領土の保全」「武力行使の禁止」などを義務付け、国連憲章に基づく平和秩序が根底から脅か

されています。志位氏は「いま重要なのは、世界の国々にと市民社会が『侵略やめよ』『国連憲章を守れ』の一点で、声をあげ、力を合

わせることだ。その声でプーチン政権を包囲し、ロシアの国民とも連携する。これが侵略を止める道だ」と強調しました。

今こそ大きな声あげよう

歌手 加藤登紀子さん



ウクライナの首都キエフには1999年にチェルノブイリへのテレビ取材のときに滞在したことがあります。出会った人や美しい街が今も目に浮かびます。

市民が生活する都市の真ただ中に爆撃す

など許せません。ロシアは女性や子どもを含む市民への攻撃を一刻も早くやめてほしい。ウクライナの人たちの被害が大きくなることを祈っています。黙って見ていることができません、ツイッターなどで思いを発信しています。2月26日には

長野でのコンサートで「花はどこへ行った」を歌いました。ロシアのコサック民謡をもとに、アメリカのフォーク歌手、ピート・シーガーがつくった歌です。1960年代、ベトナム侵略に反対する反戦歌として全世界で歌われました。

世界中で「戦争反対」「戦争をやめろ」の声が広がり、ロシアの市民もプーチン大統領の独断に怒り、「戦争反対」を叫んでいます。身の危険があるにもかかわらず、声をあげるロシアの人たちを力いっぱい抱きしめた

ソ連の覇権主義とたたかってきた日本共産党



日本共産党は綱領で「どんな国であれ覇権主義的な干渉、戦争、抑圧、支配を許さず、平和の国際秩序を築く」と掲げている党です。

チェコスロバキア侵略(1968年)やアフガニスタン侵略(79-89年)などの旧ソ連による覇権主義に對し、日本共産党は正面からたたかってきました。旧ソ連は、日本共産党に對しても干渉攻撃を繰り返しましたが、そのすべてを正面からたたかい、打ち破

綱領が、どんな国であれ覇権主義を許さないと強調しているのは、世界で覇権をふるっているのは米国だけではないからです。中国もロシアも覇権主義的行動をエスカレートさせています。どんな国の覇権主義も許さず、国連憲章にもとづき平和の国際秩序を築くというのが、綱領に刻まれた日本共産党の立場です。

未来ひらく



「赤旗」

日刊 月3497円
日曜版 月930円
090-9987-7909

日本共産党

米核兵器の共有 維新「議論は当然」

日本維新の会の松井一郎代表(大阪市長)は28日、日本国内に米国の核兵器を配備し日米で共同運用する「ニュークリア・シェアリング(核兵器の共有)」に關し「議論するのは当然だ」との考えを示しました。記者団の質問に答えました。

則は戦後80年弱の価値観だが、核を持つている国が戦争を仕掛けてくる。昭和の価値観の元首相に「核シェアリングもこれからの日本などと言言。「米国の原子力潜水艦をリースしてもらおう」という議論もすべきだ」とも語りました。ニュークリア・シェアリングをめぐるア

お友だち
モリ・カケ・トランプ
それにウラジミール
——アベ元首相
埼玉・只野凡人



この紙面は「しんぶん赤旗」の切り抜き記事です。

この危機に乗じて憲法9条や国連を無力と攻撃する声があります。

「力の論理」ではなく 憲法9条の力生かす動きを

一部メディアや政治家たちが「9条で日本を守れない」「国連は無力」などと主張しています。この議論は軍事力を強化し「力あるものが勝つ」という「力の論理」信奉に行き着きます。この「力の論理」を、いま最も野蠻な形でやっているのがプー

チン大統領です。そのプーチン氏を「領土的野心はない」と擁護しているのが安倍晋三元首相です。2月27日の民放番組で、米国の核兵器を自国内に配備して共同運用する「核共有」を議論すべきとも主張。「力の論理」信奉でプーチン氏と足並みをそろえています。「力の論理」に「力の論理」で対抗することを否定し、紛争の平和的解決を追求するのが国連憲章であり、この精神をどこまで追求したのが憲法9条です。9条には「二度と侵略国家にならない」という決意と、自ら戦争を放棄し世界平和の先駆けになる決意が込められています。今の世界にあって9条の生命力を生かすことがいよいよ大事になってい